

# H.C.R.2013 開催プログラム詳細

## [1] 国際シンポジウム

### 活力ある高齢化と世代間連帯へのドイツの挑戦 ～公的年金をめぐるパラドックスの解決策となるか?～

手話通訳

わが国では将来にむけて少子高齢化が急進し、年金や医療・介護、子育てなどの需要をふまえた供給をはかつていくことが急務とされ、来年4月からは消費税の引き上げによるその財源確保も予定されています。

とりわけ、介護ニーズが急増していくために、現状8.9兆円の2倍相当の介護保険の財源をはじめ、介護人材についても100万人増員させることが必要とされています。

そこで、H.C.R.2013では、1994年に介護保険を導入したドイツから講師を招いて、同国やEU諸国での介護や高齢者福祉の現状と、今後の高齢化のさらなる進行によって深刻化することが予想される高齢者政策の方向について、特に年金問題を中心とした具体的なレポートをいただき、それをもとに超高齢化へと向かうわが国の介護・医療などの社会保障制度の改革の動きとあり方について、考察いたします。

【日英同時通訳付】

開催日時：平成25年9月19日(木) 13:00～16:00

会場：会議棟6F 605～608会議室

参加者：高齢化社会の課題や政策・制度に関心のある方であれば、どなたでも参加いただけます。

講師：Manfred Wienand (マンフレッド・ヴィーナント)氏  
SRHハイデルベルク大学 社会学教授、  
元ドイツ公私福祉連盟事務局長

チューター：近藤 純五郎 氏

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協合理事長、弁護士、元厚生労働事務次官

参加費：1,000円

## H.C.R.セミナー

1. 会議棟6・7Fにて、共通資料(1部1,000円)を使用して行うセミナー

9月18日(水)

### [2] 介護で腰痛にならないための基本技術を学ぶ ～ボディメカニクスの理解と活用～

手話通訳

腰痛は介護する方々にとって大きな課題です。リフトなど機器の使用、住環境の改善、介護者の体力改善、適正な介護の仕方(技術)の習得など腰痛にならないための工夫はいくつかあります。介護をする方は、これらの要素を組み合わせることで腰痛予防をおこなっていく必要があります。

ボディメカニクスは介護時の適正な姿勢や動作を確保し、介護する側・される側双方にとって楽に安定させる技術です。実演をもって、わかりやすく説明します。

会場：会議棟6F 605～608会議室

主な参加対象者：在宅で介護を行っている方、新任介護職員・ホームヘルパーなど

日時：9月18日(水) 11:00～12:30

講師：青柳 佳子 氏

目白大学短期大学部 生活科学科 専任講師

### [3] 福祉施設の実践事例発表

～役立つ活かせる実践研究、工夫とアイデア～

介護・障害者・児童福祉施設の現場では、スタッフが日々の利用者への援助・支援においてさまざまな創意・工夫を行うことによって、福祉サービスの改善、質的な向上がはかられています。こうした創意・工夫は、全国の福祉施設で活かせるアイデアとノウハウです。

本講座では、創意・工夫の情報を共有することで、福祉サービスの質の向上をはかることを目的として、福祉施設での実践事例、研究発表を紹介いたします。

1) 福祉施設におけるマネジメントと地域貢献の取り組み

会場：会議棟6F 605～608会議室

主な参加対象者：介護・福祉施設関係者など

日時：9月18日(水) 13:30～16:00

発表事例(予定)：

- ①「当施設における研修制度の変更とその影響」  
社会福祉法人正仁会  
特別養護老人ホームなごみの郷(広島県・広島市)
- ②「エーデル土山のリスクマネジメントシステム」  
社会福祉法人あいの土山福祉会  
特別養護老人ホームエーデル土山(滋賀県)
- ③「美しい地域社会を築こう誠幸園の取り組み」  
社会福祉法人至誠会 救護施設誠幸園(青森県)
- ④「施設の特徴を活かす地域貢献」  
社会福祉法人芳香会  
介護老人保健施設青嵐荘ケア・アシスタンス(茨城県)
- ⑤「社会福祉懇談会における日本経営品質賞勉強会の取り組み」  
社会福祉懇談会 経営品質向上活動委員会

2) ケアの場面における創意・工夫

会場：会議棟7F 701～702会議室

主な参加対象者：介護・福祉施設関係者など

日時：9月18日(水) 13:30～16:00

発表事例(予定)：

- ⑥「乳幼児用座位保持用具の工夫と製作  
一空箱段ボールと紙管(ラップフィルム芯)で作製」  
愛媛県立中央病院 愛媛県立子ども療育センター(愛媛県)
- ⑦「おいしい! 安全! 粥ゼリー  
～口腔ケア後の嚥下調整食への取り組み～」  
社会福祉法人さくま  
特別養護老人ホームさくまの里(静岡県・浜松市)
- ⑧「ショートステイ奮闘記～娘宅にきたような～」  
社会福祉法人恭和会  
ケアハウス四季が丘短期入所生活介護事業所(岡山県)
- ⑨「1年間の生活について～たくさんの笑顔をありがとう～」  
社会福祉法人カナン  
特別養護老人ホームあんり(大阪府・南河内郡)
- ⑩「ヘルパーの痰吸引対応について～みんなで手をつないで～」  
社会福祉法人大阪府社会福祉事業団  
特別養護老人ホーム光明荘  
ヘルパーステーション(大阪府・和泉市)

※1)と2)は2つの会場に分かれて開催します。

参加を希望される会場の受付を9月18日12:30より先着順にて行います。

9月19日(木)

### [4] 超高齢社会のまちづくり ～柏市豊四季台地域での取り組みをつうじて

手話通訳

2030年には3人に1人が高齢になるとの予測が公表されるなど、超高齢化に向かうわが国において、将来の人口構造の変化は都市であれ、地方であれ大きな環境変化をもたらします。したがって、さらなる少子高齢化社会に向けた暮らし方や、まちづくりを描くことは避けることのできない重要な課題であります。

現在、千葉県柏市豊四季台団地において柏市、東京大学高齢社会総合研究機構、UR都市機構が共同で医療・看護・介護、就労、住まいなどを網羅した急激な都市高齢化に向けての本格的なプロジェクトが進められています。そうした取り組みの状況と課題に注目し、長寿社会のなかでのわが国でのまちづくりの創造について考える機会とします。

会場：会議棟6F 605～608会議室

主な参加対象者：高齢社会問題に関心のある一般の方々、福祉・行政関係者

日時：9月19日(木) 10:30～12:00

講師：辻 哲夫 氏

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授

9月20日(金)

### [5] 福祉施設における感染症の知識と対応 ～知っておきたい感染症対策のポイント

福祉施設は利用者が集団で生活する場であり、感染症に対す

るきめ細かな配慮は欠かすことができません。特に高齢者や障害者は感染すると症状が非常に重くなることもめずらしくありません。福祉施設職員は感染症に対する正しい知識をもち、その予防に努めるとともに、発症時における適切な対応が求められます。

本講座では、高齢者・障害者施設における日常の感染症に関する知識と予防、発症後の対応策について学びます。

会場：会議棟6F 605～608会議室

主な参加対象者：介護・福祉施設関係者のほか、  
テーマに関心のある一般の方々

日時：9月20日(金) 11:00～12:30

講師：小坂 健 氏

東北大学大学院 歯学研究所 副研究科長

### [6] 再生可能エネルギーの活用による 障害者雇用の促進 ～エネルギーの地産地消に貢献する福祉施設

東日本大震災以降、再生可能エネルギーの開発、地域のお金を循環させるエネルギーの地産地消の試みなど、地域経済を活性化させる新たなエネルギー政策が進められています。そのなかで、社会福祉施設などがエネルギー供給側の一員として活躍し、また、消費者・大口需要者として貢献する事例が増えています。

再生可能エネルギーで地域経済に活路を見いだそうとする社会福祉団体、ベンチャー企業などの取り組みについて紹介します。

会場：会議棟6F 605～608会議室

主な参加対象者：介護・福祉施設関係者のほか、  
テーマに関心のある一般の方々

日時：9月20日(金) 13:30～15:30

事例発表者等：

1. 基調講演  
社会福祉施設等における再生可能エネルギーの活用～地球環境の防衛者の一人として～  
炭谷 茂 氏  
社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会 委員長  
社会福祉法人 恩賜財団済生会 理事長  
一般財団法人 地球・人間環境フォーラム 理事長
2. 事例発表  
①北陸発の新エネルギー社会システムの構築を目指して～プラスチック・アルミ等の包装容器の資源化と社会展開の可能性を探る～  
北陸グリーンエネルギー研究会 事務局長 水木 伸明 氏  
②福祉作業所が地域経済を活性化！～熱エネルギーの地産地消～  
(株)さいかい産業 取締役 古川 正司 氏  
③NPO 法人あおぞら／C-nets にいがた事例紹介  
NPO 法人 あおぞらボコーレション 施設長  
本多 佳美 氏
3. 司会・進行 社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会

### 2. 東3、6ホール内にて、先着順・自由参加でのセミナー 特設会場A(東3ホール内)

### [7] はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー

手話通訳

「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3編をさらに以下の10のテーマに分類して、3日間にわたりセミナーを開催します。

《9月18日(水) 住宅改修編》

①「住宅改修」  
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 准教授  
橋本 美芽 氏

②「トイレ・排泄用品」  
NPO法人 日本コンチネンス協会 牧野 美奈子 氏

③「入浴機器」  
高齢者生活福祉研究所 所長／理学療法士  
加島 守 氏

《9月19日(木) 基本動作編》

④「ベッド」  
神戸学院大学 総合リハビリテーション学部  
医療リハビリテーション学科 教授 古田 恒輔 氏

- ⑤「リフト等移乗用品」  
神戸学院大学 総合リハビリテーション学部  
医療リハビリテーション学科 教授 古田 恒輔 氏
- ⑥「杖・歩行器等補助用品」  
高齢者生活福祉研究所 所長／理学療法士  
加島 守 氏
- ⑦「車いす」  
公益財団法人 武蔵野市福祉公社 作業療法士  
堀家 京子 氏

《9月20日(金) 自立支援編》

- ⑧「福祉車両」  
国立障害者リハビリテーションセンター  
自立支援局 自立訓練部 機能訓練課 自動車訓練室長  
熊倉 良雄 氏
- 国立障害者リハビリテーションセンター  
主任理学療法士 吉田 由美子 氏
- ⑨「コミュニケーション機器」  
東京大学 先端科学技術研究センター  
人間支援工学分野 教授 中邑 賢龍 氏
- ⑩「自助具」  
ヒューマン ユニバーサルデザインオフィス 代表  
岡田 英志 氏

※副読本（「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3種類）を本セミナー会場にて販売しております。1冊100円です。

## 特設会場C（東6ホール内）

### 【8】高齢者むけの手軽な日々の食事 ～惣菜やレトルト食品を おいしくバランスアップ【高齢者の料理講座】

手話通訳

高齢者の一人暮らしや高齢者夫婦世帯が増えています。こうした世帯では、長寿化が進むにつれて、毎日の食生活のために料理をつくることも、栄養バランスを考えて手間をかけることも大変なことです。

そのため、日々の食事を市販のお弁当などで済ませる方も多くなっています。そこで、コンビニの弁当やスーパーの惣菜・レトルト食品などをもとにして、ひと工夫を加えることによって、簡単に、豊かに、かつ、栄養のバランスがとれる毎日の食事のつくり方を、実演を交えて紹介します。

「特設会場C」の特設ステージにて、毎日13:00～14:00の時間帯に「高齢者の料理講座」として開催します。

講師：今 寿賀子 氏 虎の門病院栄養部部長  
押田 京子 氏 虎の門病院栄養部副部長

※H.C.R.2009から本講座で紹介してきたレシピを全て掲載した冊子を、本講座会場にて販売しております。1冊700円です。

## H.C.R.特別企画

（講座・常設展示・相談・デモンストレーション、いずれも自由参加）

## 特設会場A（東3ホール内）

### 【9】障害児のための「子ども広場」

障害のある子どもの発育段階において、福祉機器の利用は成長と生活において大きな可能性を拓けるものです。そこで、子ども向け福祉機器の開発・普及を目的に「子ども広場」を会場内に設置して子ども向けの福祉機器を総合展示するとともに、福祉機器の利用や療育についての相談コーナーや、保育士が常駐するひとやすみコーナーのほか、新企画「親子で楽チン！ ワクワク！ 入浴グッズ体験コーナー」などを設けます。

#### 【I 福祉機器展示コーナー】

終日展示。展示製品について、下記時間帯に説明を聞くことができます。

	11:00～12:00	13:30～14:30	15:00～16:00
9月18日(水)	●いす・カーシート ●食食用具・食器／衣類・靴	●学習機器／コミュニケーション機器	●車いす ●バギー・歩行器
9月19日(木)	●車いす ●バギー・歩行器	●いす・カーシート ●食食用具・食器／衣類・靴	●学習機器／コミュニケーション機器
9月20日(金)	●学習機器／コミュニケーション機器	●車いす ●バギー・歩行器	●いす・カーシート ●食食用具・食器／衣類・靴

※展示製品の詳細については、別冊「H.C.R.特別企画（講座・製品展示・相談・デモンストレーション）」のご案内をご参照ください。

## 【II 相談コーナー】

下記時間帯に、各種相談ができます。

9月18日(水)～9月20日(金)	11:00～12:00	13:00～14:30	15:00～16:00
※上記の時間帯には、療育相談と福祉機器相談について、それぞれ2名の担当が配置されます。 ※各日13:00～14:30は、III 入浴グッズ体験コーナーの説明も受けられます。			

## 【III 親子で楽チン！ ワクワク！ 入浴グッズ体験コーナー】

毎日抱っこで子どもをお風呂に入れているお母さん！本当にその方法で大丈夫ですか？ 最近は、便利な福祉用具がたくさん開発されています。

このコーナーは、H.C.R.に出展されている企業のなかから子ども向けのお風呂用具を集めて、比較体験する場所として設けました。実際に浴槽も展示されているので、介助のイメージはとてもしやすいはず！

バスチェアやバスキャリー、リフトなどたくさん展示しています。

お母さんたちの腰痛予防はもちろんのこと、子どもの大好きなお風呂の時間を楽しくするために、ぜひ体験してください。

（I～IIIの企画への運営ご協力：横浜市総合リハビリテーションセンター）

## 【IV ひとやすみコーナー】

保育士が常駐しています。広場のおもちゃを使って子どもたちと遊んだり、保護者（親）のみなさんと子育てについてお話ししましょう。

（IVの企画への運営ご協力：東京都社協保育士会）

## 【10】ふくしの相談コーナー

技師、作業療法士などの専門家が、福祉機器や自助具に関わる来場者の相談に無料で応じます。

（運営ご協力：日本作業療法士協会、大阪府肢体不自由児協会 大肢協ボランティアグループ自助具の部屋）

## 特設会場B（東6ホール内、ガレリア入口横）

### 【11】知っているとこんなに便利！ 身の回りにおけるテクノロジー（アルテック）で 創る豊かで楽しい生活【アルテック講座】

手話通訳

多くの人の身の回りにおけるテクノロジー（アルテック）を用いることで、障害がある人の生活が大きく変わります。

たとえば、印刷された本を読めない人でもタブレットPCを用いると電子書籍や新聞を簡単に読むことができますし、音声が使えないためにコミュニケーションに不自由を抱える人も、スマホでチャットを楽しみ、また、アプリを入れれば音声で会話することも可能です。そのほか、メモをとれない人はICレコーダやデジカメを上手く活用すればよいなど、無限大の可能性が広がっています。

このセミナーでは、誰もが日常活用しているスマホ、タブレット、ICレコーダなどのICT（情報通信技術）製品を、障害のある人の生活や学習支援に活かすアイデアとともに紹介します。

#### <講座プログラム>

- ①重度障害のある人の意思を読む  
ーキネクトOAKを用いたわずかな動きの活用や呼吸のモニタリングー  
巖淵 守 氏(東京大学先端科学技術研究センター)  
田代 洋章 氏(NPO法人 e-AT利用促進協会)
- ②障害のある子どもの学びや生活を支える魔法の道具  
ー魔法のプロジェクトから見たタブレットやスマホが創る新しい生活ー  
中邑 賢龍 氏(東京大学先端科学技術研究センター)  
河野 俊寛 氏(東京大学先端科学技術研究センター)
- ③視覚障害のある人がタブレットやスマホを使ってみると  
ーiPhone,iPadが創る新しい生活ー  
三宅 琢 氏(Gift Hands)
- ④読み書きの難しい人に使えるアルテックデジタル書籍や新聞を読んでICレコーダやデジカメで記録する  
河野 俊寛 氏(東京大学先端科学技術研究センター)
- ⑤障害のある人とのコミュニケーションに使えるアルテック  
ートーキングエイドアプリやカメラを活用する  
田代 洋章 氏(NPO法人 e-AT利用促進協会)

※会期中の講座のタイムスケジュールについては、別冊「H.C.R.特別企画（講座・製品展示・相談・デモンストレーション）」のご案内をご参照ください。

## 特設会場C（東6ホール内）

### 【12】高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー ～生活に便利なグッズ、その知られざる 歴史とノウハウ【目からウロコ展】～

福祉機器には、障害のある人や高齢者などの自立や介助を支援するために、研究や工夫の歴史が詰まったモノが沢山あります。

- はじめは、障害のある人のために開発されたものが今では一般化され、多くの人が便利に使っているモノ(ライターや温水洗浄便座)
- 利き手に関係なく使えるモノや、特に左利き用に作られたモノ(トランプ)
- 触っただけで中身の違いが分かるモノ(柏餅、シャンプー・リンス、牛乳パック)
- 片手でも操作できるモノ(トイレトペーパーホルダー)
- 高齢者にも聞こえる音で「はじまり」や「おわり」を知らせるモノ(2,500ヘルツ以下の報知音の出る家電製品)
- 音声で重要なコトを知らせてくれるモノ(音声体重計)
- その人に合わせて販売してくれるシステム(片足ずつ販売している靴)
- 字幕付きのテレビコマーシャル
- お風呂、日本の工夫の宝庫

などなど、実は普段、接しているモノの中にも、いろいろな工夫があります。どうか、手にとって、試してみただけだと思いませんか。

きっと、なかには、家族やお友だちに、自慢して話したくなるモノがあるはず！

どうか、目からウロコを落としにいらしてください。お待ちしております。

#### 目から鱗が落ちる

あることがきっかけとして、急にものごとの真相や本質が分かるようになること。(広辞苑 第六版)

(企画・監修、運営ご協力：共用品推進機構、テクノエイド協会)

## 【13】福祉機器開発最前線

(デモンストレーションに  手話通訳 )

企業・研究機関の研究開発、試作状況などの情報提供や紹介の場として、最新の機器や製品の展示及びデモンストレーションを行います。

※デモンストレーションのタイムスケジュールなどについては、別冊「H.C.R.特別企画（講座・製品展示・相談・デモンストレーション）」のご案内をご参照ください。

## 東6ホール内 / 小間番号：6-18-06

## 【14】被災地応援コーナー

昨年に引き続き、東日本大震災で特に被害の大きかった東北3県(岩手県、宮城県、福島県)のセルフ(障害者授産施設)の製品を販売いたします。

## 40周年特別企画

## ガレリア 東2ホール前

## 【15】H.C.R.40周年記念パネル展示

第1回の福祉機器展は、昭和49(1974)年11月16日にスタートしました。

背景には、国が進めていた社会福祉施設の緊急整備計画に伴い急増する老人福祉施設などで働く職員の腰痛や頸腕症候群などの職業病という問題がありました。そのため、福祉施設の整備とともに設備の近代化として車いす、ベッド、浴槽などの福祉機器を導入し、職員の負担軽減や入所者の処遇向上などをはかることが急務の課題でした。

以後、老人と障害者の自立と参加を支えることを目的として、福祉機器展は毎年開催されていきます。

1986年には、初めての国際展示会が開催されました。

1992年からは、国際福祉機器展の規模も徐々に拡大し、海外企業の定着化と国内企業の参加が大幅に増えながら、福祉機器の種類、技術・機能、デザイン性も飛躍的に拡充してきており、H.C.R.は欧米に次ぐ規模の展示会として、今日にいたっています。

ここに40年の歩みをご紹介します。

展示時間：H.C.R.会期中の終日(10:00～17:00)

注1)題名の下に  手話通訳  マークのついたプログラムは、手話通訳を行います。

注2)H.C.R.セミナー、特別企画への参加自体に係る費用は無料です。

注3)H.C.R.特別企画(講座・常設展示・相談・デモンストレーション)【9】～【14】のタイムスケジュールや展示製品の詳細などについては、別冊「H.C.R.特別企画(講座・常設展示・相談・デモンストレーション)」のご案内をご覧ください。